

只見米ブランド協議会

平成29年に、「只見の田んぼを次世代へ」をモットーに水稻を生産する5法人与1名で発足。全メンバーがJGAP認証を取得しつつ、協議会で統一した施肥基準、栽培管理を実践。

代表者名：山内 征久

所在地：福島県南会津郡只見町

認証：JGAP(H31年)

面積：100ha

構成員：6名

品目：米(玄米、精米)

取組の紹介

【生産工程管理の改善に向けた取組】

- リスク管理表などの様式を統一するとともに、全メンバーがほ場管理システムを導入し、栽培管理及び記録を簡略化。保管したデータは、次年度の栽培計画や圃場管理に活用。

【GAPの継続に向けた取組】

- 定期的にGAP講習会を開催し、各農場のリスク管理や従業員のマネジメント、翌年の栽培管理に反映。
- 有機質資材の投入など肥培管理を統一し、継続的な土づくりにより、協議会メンバーが生産する米の品質や安全性を高位平準化。

【生産効率性向上に向けた取組及び効果】

- 従業員が持つ熟練した技術や知識をマニュアルやリスク管理に活用。

【経営の改善に向けた取組とその効果】

- GAP認証取得を契機に、GAP認証農産物のみを扱う飲食店と取引を開始。
- 取引先の社員を稲刈り等のイベントに招待し、情報交換を行うことで、協議会やGAPの取組の理解醸成に貢献。



協議会メンバー



GAP講習会の様子



協議会の独自商品

ホームページ